



多摩市立瓜生小学校

## 瓜生小だより

令和2年度 第9号

令和2年 11月30日

## 本物に触れることの大切さ

校長 水野裕司

瓜生小学校では、10月から11月にかけて、全学年で校外学習を実施することができました。今回は、その様子を紹介します。

## ○10月1日(木) 第3学年 社会科見学(多摩市内見学) バス

バスや公共交通機関を利用した校外学習が解禁された初日に実施しました。関戸の農家や一本杉公園の古民家などを見学しました。旧鎌倉街道から少し脇に入ると、昔ながらの多摩の谷戸の風景が残っています。ニュータウン地域に住む子供たちにとって、日常生活の中では触れることの少ない多摩市の一面を見ることができました。

## ○10月15日(木) 第5学年 社会科見学(製鉄所、科学館) バス

製鉄所には埋め立てた人工島まで、海底トンネルを通って行きました。圧延工場では、赤く熱せられた鉄の塊がローラーでできた長い通路の上をすべるように流れ、機械の中を通る度にどんどん薄く長い鉄板となり、巨大なトイレットペーパーのようになりました。子供たちは、工場の高い所にある通路を歩きながら、その様子を見学しました。鉄板からは、結構距離がありましたが、ストーブのすぐ近くにいるよりも熱く感じるほどの熱が伝わってきました。

## ○10月16日(金) 第1・2学年 生活課見学(多摩動物公園) 小田急線・モノレール

感染症対策として、モノレール沿線の3つの大学に授業の再開状況を電話で確認した上で実施しました。当日の往復は、ほぼ貸し切り状態で安心して行くことができました。動物園では、幼稚園や他の学校も来ていました。ライオンの雄叫びに野生動物の迫力を感じたり、あまり動かないコアラを探したりと子供たちは夢中になっていました。

## ○10月22日(木) 第3・4学年 遠足(高尾山) 京王線

1度目は雨で延期、2度目も怪しい天気でしたが、無事に行くことができました。1号路を歩いて登り、ケーブルカーで下山しました。急な登り坂に、数人の3年生は、「とても楽しみにしていたけど、来なければよかった。」「リュックをここに置いて行ってもいい?」と弱音が出てしまいました。しかし、みんなに励まされて歩き切り、充実感いっぱいの笑顔でお弁当を食べていました。一方、4年生は、しっかりと足取りで歩き、1年間の成長を感じるすることができました。

## ○11月17日(火) 第4学年 社会科見学(小河内ダム、羽村取水堰) バス

バスが多摩川の四谷橋を渡るとき、車窓から奥多摩の山並み小さく見えました。「あの山のもっと奥の方に行くんだよ。」「えー!」という声を期待していましたが、「ふへん…」と少し寂しい反応でした。しかし、現地では、急な谷の斜面や小河内ダムの大きさに驚きの声を上げながら見学していました。また、羽村の取水堰では、玉川上水に勢いよく流れ込む水を見て、機械のない時代にこれだけの物を作った人々の苦勞に思いをはせていました。

## ○11月18日(水) 第6学年 社会科見学(国会議事堂、江戸東京博物館) バス

両施設とも入場を制限しており、安心して見学できました。国会の体験コーナーでは、委員会での審議から本会議での投票までを役わり分担しながら体験しました。参議院本会議場では、瓜生小学校だけでゆったりと傍聴席に座り説明の放送を聞くことができました。江戸東京博物館でも学校は瓜生小学校だけで、江戸の生活の様子や文化をゆっくりと学ぶことができました。

校外学習で子供たちが学んできたことは、教室の中で教科書や映像教材を見るだけでは学べないことばかりです。本物に触れ、すべての感覚を使って感じる中で学ぶことを、今後も大切にしていきたいと考えています。一方、校外学習が終わった11月下旬から、コロナウィルスに感染する方が、毎日のように増えています。このような時には、決して無理をすることなく、安全第一で教育活動を進めていきます。今後も、急なお願いや変更などがあるかと思いますが、引き続き保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。